

# まちづくりNEWS

## 旭川市総合計画市民検討会議

第2分科会 vol.3  
平成26年9月9日

(発行元)  
旭川ウェルビーイングコンソーシアム  
旭川市1条通8丁目 フィール旭川7階  
TEL/FAX 26-0338  
(委託者)旭川市総合政策部総合計画課

### 旭川市総合計画市民検討会議 第2分科会(教育・文化)の第3回会議が行われました！！

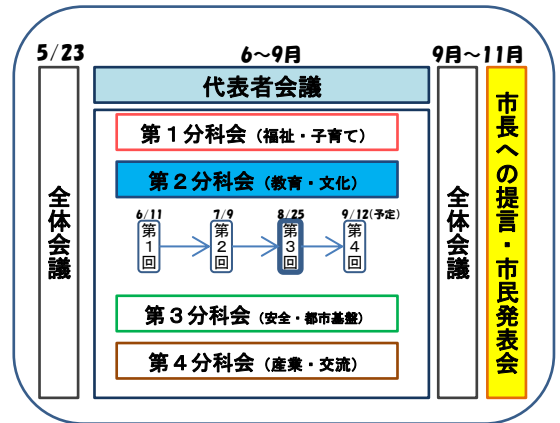
この第2分科会では、平成28年度以降の新たな総合計画の策定に向けた提言を行うため、これからの旭川市の「教育・文化」について検討を行っています。

今回の第3回分科会では、4人の委員から口頭で、欠席された委員1人からは文書で「～旭川をより良いまちにするために、私たちの立場から提言できること～」をテーマに意見発表を行い、その後、意見交換を行いました。

以下、5人の委員による提言を紹介します。



#### 市民検討会議の主なスケジュール



#### 委員提言要旨①

「若者が 集まる町に」

- [高等教育の充実を]  
→旭川の主要産業である「家具・木工」などの技術者を旭川で育て、旭川で働けるように市と関連企業が協力し、地域産業を担う若い人材を育てていく仕組み（専門学校等の教育の場）を作り上げ、定住につなげることが必要  
[文化の華咲く町]  
→文化活動の担い手の高齢化等が問題。若者の活動が活発化するよう発表の場の創設など、もっと市がかかわってほしい。
- 文化都市にふさわしい[旭川市文化祭月間]の創設を
- 文化・スポーツで活躍した人をたたえる[旭川市賞]の創設を
- 文化・スポーツ団体等の[連絡協議会]の整備を
- 市民が集える[マーケット作り]  
→日常的に市民が足を運ぶ「市」を開催
- [つつじ公園の造成を]



#### 委員提言要旨②

—未来を夢見る成長への手助け—

～ 生涯音楽学習活動推進のための活動について ～

- AMP旭川音楽振興会は全国で最初の音楽振興団体。望郷の鐘コンサート、旭川市新人音楽会、PMFコンサート等の各種事業を実施している。
- 最近では役員の高齢化や会員の減少などの課題がある。発表の場も少ない。
- 高齢者は興味を持ってくれるが、若い世代にはあまり興味を持ってもらえない。
- 旭川は音楽活動は盛んだが、市からの支援は団体が積極的に努力しなければ得られない。市の支援は薄い。
- 市には音楽文化を一般に溶け込ませるような取組をお願いしたい。
- カリヨンが故障しており、人通りが少ない場所に設置されているので、移転が必要



### 委員提言要旨③

「スポーツ・レクリエーション  
～健康寿命の向上を目指しての体力・気力の維持管理に向けて」

- 介護を受けたり病気で寝たきりにならず、自立して健康に生活できる年齢である「健康寿命」の延伸のためには、健康づくり、スポーツなどが重要
- 「平均寿命」と「健康寿命」のギャップを縮め、いつまでも健康で生きていくためには、若いうちからスポーツに取り組むことが重要であり、生き方を考えることにもつながる。
- 市内の運動施設は、一通り揃っているという職員WGの意見があったが、屋内施設は不足しており、冬期間は屋外競技が入ってくるため特に不足する状況。大会も市外の施設を活用することもある。
- 気楽に使用できる施設が欲しいという声も多い。
- 東光スポーツ公園に複合体育施設の計画があり、管理・運営は民間で可能なので検討してほしい。



### 委員提言要旨④

「より良いまち」づくりのために

- ①旭川に愛着、誇りをもつことのできる生徒
- ②人間性豊かな子どもを育む

- 「地域、家庭、学校」の三者連携で行うことが重要
- まちづくり市民意識調査では、高卒後の若い世代の満足度は高いが、子育て世代の満足度は低い。この原因は、学校と保護者との連携不足や家庭でのコミュニケーション不足が考えられる。
- 学校にできることは、基礎学力、自ら学び考える力、児童生徒の実態に応じた特色のある活動、問題解決型の学習、キャリア教育、体験活動など様々である。インターネットの普及など、時代によって指導すべき時期（年代）等も変化
- さらに、学校にできることは、法令の中で真摯に努力すべきことと、家庭や地域との連携の2つに分けられる。
- 旭川をより良くしていくためには、人間性豊かな子どもの育成と、旭川に愛着と誇りを持つ子どもの育成が重要。そのためには、地域を学ぶ、地域に学ぶ、地域で学ぶ活動を推進していくことが重要で、地域資源に関する情報を集約する必要がある。
- 子どもの問題は学校だけでは解決できない。家庭、地域との連携、まちぐるみで取り組んでいくという市民の意識向上が重要である。



### 委員提言要旨⑤

- 三浦綾子記念文学館と、それを囲むようにあるみどり豊かな見本林は、他にないオンリーワンの素晴らしいロケーションであり、付加価値を付けると更に大きな旭川のスポットとなる。
- 見本林を整備するなど、付加価値を付けることで、子どもから大人までが遊んだり、ゆったりとできる、癒し、自己発見、人性の素晴らしさ等を感じられる場所となる。
- 安全、自然志向が高まる中、本気で実行すれば、恒久的に人が集める場所となり、街に活力が出てくるはずである。



### 主な意見内容

- 旭川には良いコンテンツが多くあるが、バラバラで存在しているため、それらをつないでいく発想が必要
- 旭川には文化的なブランドという意味で良いものがあるが、市民全体の認識が不足しているため、PRなどが課題
- 仕事などで忙しく余裕がないため、文化活動に参加できない人も多い。
- 市民全体に文化活動などを浸透させるためには、発表の場などが必要だが、市では全てできないので、市民主体でできないか。
- 文化活動は市民が支えることが基本。こうした「支える」という意識づくりが必要で、教育の役割が重要
- 音楽振興の一環として、カリヨンを駅前に移転してはどうか。
- 学校開放などにおける柔軟な管理体制の構築など、施設を有効活用するためのシステムづくりなどの検討が必要
- 少子化で学校単位でチームが作れないなら地域でチームを作るなどの柔軟な発想が必要
- スポーツ振興で健康維持ができるという視点も重要 ○一流のアスリートを育てる方にシフトする方法もある。

○第2分科会は全4回です。

9月12日(金)の第4回分科会では、提言のまとめに向けて、最終的な検討を行うとともに、11月頃に予定している「市民発表会」の準備を行います。